

Ⅲ 学校経営の大綱



1 教育目標

だれとでも仲よくする子 すすんで学び とりくむ子

○ 教育目標の意味

「だれとでも仲よくする」というのは、差別をしないということである。それは、友達のがんばりを素直に認め、悩んでいる友達を心から励まし、過ちは注意出来るということである。これは、簡単そうで難しい。しかし、この「仲間意識」を醸成することは、学校の大切な役割のひとつである。出雲崎に生きる子供たちにつけたい力である。

「すすんで学びとりくむ」とは、自らの意思で決めるということである。やらされるのではない。この学校を自分たちの力でよくしていこう、将来はこうなりたいといった夢を語り、主体的に活動する姿である。そのためには、やり遂げたという成功体験が欠かせない。

当校の教育目標は、上記のようなことを中核に据えると同時に、次のような具体的な姿を想定している。

みんなで力を合わせて活動すると
↓ ※ 教師の仕掛け
心が豊かになり、本当の楽しさを感じることができる
↓ ※ 継続した取組
その体験を重ねていくと
「またみんなと一緒にやりたい」
「もっと楽しくなるように工夫したい」
「自分も、企画・運営の役に立ちたい」
「他の人にもこの楽しさを一緒に味わってもらいたい」
と、いう気持ちが育っていく。

教育目標の実現は、こういった気持ちを育てていく教育活動の中で育まれていくものと確信している。

2 子供たちにつけたい力

知・徳・体のバランスのとれた力を育んでいきたい。

『知』：基礎基本を身に付けた確かな学力こそが仲間とともに学ぶ原動力となる。そのために「聞く・話す」力の伸長は欠かせない。そして「学ぶ」意欲の向上を図っていく。

『徳』：仲間を思いやる心こそ、基本である。

『体』：最後まであきらめないでがんばろうという「気力・体力」が全ての活動を支える。これらを総合した力を「出雲崎学力」と規定し、出雲崎の子供を育てていく。

3 教育目標具現への歩み

昭和 53 年に西越小学校上校舎・下校舎が統合し、新校舎が現在地に竣工した。平成 12 年

に旧出雲崎小学校と統合し、現在の出雲崎小学校となってから今年度は18年目を迎える。校地は小高い丘にあり、校舎裏はナラの木が茂る貴重な里山である。そこは「ほなみが丘」と名付けられ、小鳥がさえずる自然豊かなオアシスで、子供が大好きな遊び場になっている。

地域の人々は協力的で、登下校の安全確保や学校ボランティア等に積極的で、共に子供を育てていこうとする良き気風に溢れている。

そういった環境の中で伸び伸びと子供たちは育ってきている。

26、27年度は「活躍する私!」といったスローガンを定め、一人一人が自己実現を目指し、自己有用感が育まれるように教育活動を展開してきた。28年度は、学び舎である出雲崎小学校の宝物を探そうと「宝がいっぱい!出小!!」を合い言葉に活動してきた。29年度はいよいよ第2ステージとなる。

4 教育目標具現のための「推進力」

地域の力

出雲崎町は、豊かな自然・歴史・文化・産業等に恵まれている。そのほとんどが教材に活用できるほど、教育財産の宝庫である。また、学校支援地域本部事業の成果により、当校の教育活動に地域の専門家の協力態勢がしっかりできている。28年度も、1年間で延べ800名近くの学習ボランティアから、子供たちの学びに協力をいただいた。また、町のスクールバス等を最大限に活用した地域学習も充実することができた。この地域と一体となった学びは、出雲崎小学校の教育の特色であり、今後一層、成果があがるように改善していく。

また、27年度発足した「ほなみが丘またぎ」の皆さんからは、28年度もほなみヶ丘の整備だけにとどまらず、梅の木の剪定や校庭の樹木の伐採など大いに活躍いただき、感謝している。

保護者の力

保護者と仲良くし、PTA活動など、大いに親の力を借りる。そのために、家庭連絡はこまめに、丁寧に、そして一方通行にならないように心がける。電話や連絡帳より“face-to-face”が基本と肝に銘じる。それが信頼関係を生む。スキー教室でも多くの協力をいただいた。

教職員の力

支え合い、磨き合う教職員集団でありたい。

ア 児童の最大の教育環境は教職員

真似るが学ぶの語源。教師の言動、教育への情熱、人間関係力等の手本を示す。

イ 問題解決は、全教職員の英知と行動力を結集

「報告・連絡・相談・確認」を最重視し、組織的な対応や実践を進める。

ウ 非違行為を出さない、生まない規範意識の高揚

飲酒運転、体罰、個人情報漏

5 今年度、力を入れて取り組む具体策

児童の実態と学校の実情を考え、次の3つの柱からの具体的な取組を通して、子供たちの健やかな成長を図っていく。

○確かな学力向上

- ・朝読書、朝学習の充実
- ・授業のUD化
- ・家庭学習の徹底
(学年×10分を基本)
- ・「問い」を大切にした授業改善
- ・スピーチ朝会等の充実

○豊かな心の育成

- ・「心耕」を大切にした活動の充実
- ・家庭と連携した自己有用感の育成
- ・道徳教育の充実
- ・特別支援教育の充実
- ・交流活動の改善と充実

○健やかな体づくり

- ・体力向上プログラムの実践
- ・健康的な生活習慣の定着
- ・メディアコントロール能力の育成
- ・遊びの充実を図る環境整備
- ・食育教育の充実